

市長	副市長	部長	課長等	リーダー	担当	供覧	報告者
第10回養父市振興計画審議会会議録							
期 日	平成22年6月10日(木) 午後1時30分～4時20分						
場 所	養父市立八鹿公民館 2階展示室						
出席並びに 欠席委員 出席20名 欠席5名 凡例 ○：出席 ×：欠席	委員氏名		出欠等	委員氏名		出欠等	
	会長	荒田幹夫	○	委員	仮屋美子	○	
	副会長	大林賢一	○	委員	宇都良栄子	○	
	副会長	正垣道子	○	委員	梅井逸郎	○	
	委員	池田和揮	×	委員	村上隆司	○	
	委員	山下邦子	○	委員	田渕久和	○	
	委員	雑賀 学	○	委員	吉田明博	○	
	委員	圓山 光	○	委員	米田一之	○	
	委員	松岡 勇	○	委員	池田ビルギット	×	
	委員	田中今子	○	職員委員	満田理恵	○	
	委員	田村 譲	×	職員委員	奥藤 啓	×	
	委員	山根美智子	○	職員委員	井平 聡	○	
	委員	小松原貴美子	○	職員委員	塚本 竜	×	
	委員	藤原光子	○				
アドバイザー	松原永季・スタジオ・カタリスト代表取締役						×
事務局	政策監理部長	児島一裕	×	企画政策課主幹	藤野英希	○	
	企画政策課長	栗田伸一	○	企画政策課主査	田村 亘	○	
	まちづくり課長	阿部 稔	○				
<p>1 開会 (大林副会長) 今日で10回目である。過去2回「大黒柱」というテーマで熱い議論をしてきて、今日決まかなと思っていたが、松原さんが欠席で、本日は意見交換となっている。ざっくばらんに意見交換し、「大黒柱」が決まればと思うので慎重審議をお願いしたい。</p> <p>2 あいさつ (荒田会長) 政治の世界も一段落したかに見えたが、2、3日も経たないうちにいつものパターンになった。4年間足らずで5人も首相が替わる国では、世界の国から相手にされない。それでも相手にされるのは、国や政治の力ではなく、国民の力と個人の金融資産があるからで、政治家はそのことが分かっていないのではないかと。どんな思想をもって、どこを見て政治を行っているのか、私たちには理解ができない。本日は、松原さんが欠席で、市との懇談に時間をとった後、「大黒柱」と「副題」をまとめた。今まで3回審議してきているので、自信をもって決めたい。</p> <p>3 本日までの審議経過等 (事務局) 今までを振り返りながら、今、審議していただくことの確認をしたい。現在、将来像を審議中で、その下の5つの柱はお決めいただいた。計画の体系は、5つの柱に対して、まだ、委員のみなさんにはお示ししていないが、24 施策、57 基本事業を見込んでいる。この57 基本事業に400 の各部局が実施する事</p>							

務事業につながることになる。総花的と言われるが、計画を進行管理する上で、すべての事務事業を盛り込むことは必要と考えている。すべての事務事業を盛り込むことにより、この分野は予算を重点的に配分する、この分野は予算を抑えるということが出来る。また、職員も自分の仕事がどこに位置付けられているかが分かるようになる。このため、将来像は重要であり、時間をかけてご審議いただいている。次に策定スケジュールであるが、テーマ的には3回遅れている。6月、7月で基本構想をまとめパブリックコメントにかけ、それを踏まえて、8月から11月までで基本計画を策定し、12月に市長へ答申する。現在、各部署の検討には入っていないが、将来像と柱をセットにして説明し、策定作業に入りたいと考えている。

【続いての意見交換の概要】

- 12月答申が控えている。どの計画も机の横に置かれがちだが、それでは意味がない。この計画を参考にしながら市政を進める。大切なのは、政策とそれをやり遂げること。また、委員はやり遂げさせることに責任をもつ。市役所は、いろいろなことにおいて、全庁あげて取り組むということになっていない。
- 「響きあう心 拓く明日 但馬中央の郷」という大黒柱ではイメージが分からないという説明だったが、それはどういうことを説明してほしい。
(事務局) 将来像は、抽象的な表現のものと、具体的な表現のものがある。どういう表現にすれば分かりやすいのか、何をやるのかが分かればいいのか、どちらがいいと思われるか。概念や精神的な表現では分からないので、今回、時間をかけてしっかり検討したいと思っている。市の課題を見据えて、高いところを目指さないと意味がない。
- 何を実行して、何をしていくかが分からなかった。具体性がある方が分かりやすい。
- 福祉、経済、エコ、人口増なのか。これだというものを言ってもらえば、それについて考えることはできる。
(事務局) 思いは持っていたが、みなさんの意見を聞いてから出した方がいいと思っていた。みなさんの生の声を聞かないとできないので、ワークショップなどで、みなさんにも汗をかいてもらった。今までのものを集約すると答えが出るのかなと思う。まちづくり基本条例を1年かけて、言葉をつむぎながらつくった。目指すものは、成熟した社会をバックボーンにしている。その流れの中に総合計画はあるべきだと思う。根幹の問題は過疎、少子高齢化である。前回、申し上げた「ユニバーサル」を最終目標にしなければならぬと思う。端的に表す言葉は他にない。住みやすく、人に優しいまちを目指せば、安心感を求めて人は来る。災害が起きて人も助かる。行政といいながら、みなさんの事務局である。別のまちを目指すとすることであればそれでもいいと思う。
- 「ユニバーサル」はお年寄りには分からない。将来像にするのはどうかと思う。
(事務局) それで出たのが「結」であるが、「結」とも少し違う。将来像と柱が決まったら市長へ報告する。
- 養父市の活力をどうするのか。産業とかも目指すような経済的な部分も必要だと思う。
(事務局) 経済的なものは、最終目指すものではなく、手法の話だと思う。「ユニバーサル」は10年後の話ではない。10年経ち、大黒柱を変えれば、まちの姿がブレてしまう。このため、大黒柱は変わらず、10年後にここまで達成しようというつくり方にしたい。
- 以前の事務局との打ち合わせの中で、行政の仕事はグローバルで、経済は1部分であるとあると説明を受けた。豊岡市は「コウノトリ」を一貫してきて、ようやくできつつある。
- 具体的なものもいいが、そこに限定されてしまわないか。将来像は、柱に誘導するような「笑顔あふれる」とかにすればつながるのではないか。
- 「輝け南但馬まちづくりの郷」を考えた。地域、教育、産業が輝き、まちが輝いてほしいと思う。
- 「ユニバーサル」は、生の人間が出てこない。未来を目指すことが必要で、根っこにあるものを磨く。
- コウノトリは直接、生活に関係ない夢のようなこと。神戸の友達でも大屋を知らない。ハチ高原は知っ

ている。妙見の国指定文化財のことを最近知った。ふるさとを愛し、よくしていきたい気持ちはみんな持っている。コウノトリも40年かかっている。10年では何もできない。人がいないと、人が住まないともできない。空き校舎を使って勉強できるようなことで、若い人が定住できるまちづくりや、観光面で外国の人に目を向けてもいいのではないかと。人が賑わいをつくる。教育をからめ、子どもが戻ってくるまち。たくさん宝があるのにもったいない。

- 豊岡市はうまくやっていると。将来像は1本突き通せるものが必要だと思う。「ユニバーサル」と聞くと、段差をなくすとか、行政がすることのように思え、柱にどう食い付くのか見えにくい。
- 「ユニバーサル」のパンフレットには大切なことが、いろいろ書いてあるが、将来像にするには、分かりにくいし、ピンとこない。5つの柱につながっていく言葉、大黒柱、副題が必要である。
- 「ユニバーサル」は、もうできているのではないかと。それでも人が減るのは、仕事がないからである。人口、仕事、農業、経済を総合した、横のつながりを強くした社会をめざす。
- みんな得意分野がある。横のつながりをもった経済的な仕組み作りが必要で、それをコーディネートするのは行政である。地域には、アイデアもあって、人材もいるが、生かしきれていない。
- 今までの話を聞いていけば、副題は「人間力、ふるさと力、資源力が融合する活力のまち」がいいのではないかと。大黒柱は、「パワフルシティやぶ」でどうか。

【休憩・再開】

(会長) みなさん、熱心にご議論いただいていることに感謝したい。それぞれの立場で考えていただいている。究極は、何を売り物にするか、「誰が」「何を」「どうして」である。個が光って、集団へ広がり輝く。人間力がベースである。養父市は人口が少なくても、いろいろな人が輝いている。

- 人間力とは、人と人との間をつなぐネットワークを示す言葉だと聞いた。
- 養父市の場合、「ユニバーサル社会」となるが、分かりにくい。大切なのは政策で、将来像は何でもいいのかと思いかけていたが、みなさんの意見を聞いて考え直した。(事務局)「ユニバーサル」を目指したい気持ちはある。元気が感じられなければ、副題で元気づけるような言葉を入れてはどうか。
- 「ユニバーサル社会」には、真っ向から反対である。どこにもないような養父市を目指した方がいい。
- どこにもあるけど、それを活用して養父市はやっているという方がいい。エコ社会でもいいと思う。
- 最終的には「ユニバーサル社会」を目指すか、今、何をするのかということをも市民に伝えたい。養父市のいいところを見つける。県内の職員でも養父市の位置を知らない。
- 今、養父市と朝来市には、日本に1つしかないごみ処理場ができようとしている。
- 自慢できるものはない。あるとすれば人間とかになる。シンプルな大黒柱の方が、みんながついて行きやすい。
- 「響きあう心 拓く明日 但馬中央の郷」は、養父市を表すいい言葉だと思う。「響きあう心」に集約できる。「拓く明日」も停滞感を解決する言葉だと思う。将来像をコロコロ変えて人がついて来るのか。不都合がなければ、下に副題を置き、補えばいいのではないかと。
- 10年先も未来だし、その先にも未来がある。未来を考えた柱が立てばいいのではないかと。
- 「やろうで! 養父市」は、将来像にはならなくても、キャッチフレーズには使えて、インパクトがある

と思う。1人ひとりが養父市の宣伝マンになるぐらい盛り上げていきたい。

- 私たちにも、いろいろな立場があるが、基本は人間である。今までの検討経過が血や肉になっている。「響きあう心 拓く明日 但馬中央の郷」に極端に「ノー」ということがなければ、残してもいいかなと思う。そして、「人間力、ふるさと力、資源力が融合する活力のまち」を副題にしてはどうか。10年で変わったようでも、変わっていないと思う。言葉に執着しない方がいいのではないか。将来像が変われば、今、市が使っている封筒などもムダになってしまう。
- お題目を何か決めないと、何をしていたんだということになるので、インパクトのある、自慢できるまちというような表現が必要だと思う。以前、大屋町は「信号のないまち」であった。今、信号は1基できたが、これは継続すべきであったと今思う。また、将来像は「星と語る 森と清流のまち」としていた。こういう言葉の方が認知される。経済力がなくても、住んでよかったというまちになる。自然を売り物にしてやるべき。日本人である以上「ユニバーサル」には反対である。
- 養父市らしい、みんなが分かる言葉の方がいい。
- 松原さんは、自分の考えを持っていながら、自分の考えを言わずに、アドバイザーとしてまとめている。そこで、内緒で尋ねたら「ユニバーサル社会」を言われていた。
- 「ユニバーサル社会」という言葉は10年前ぐらいに知った。最初は、段差のない社会と聞いていたが、いまでは、「どの分野でも格差のない社会」と解釈している。
- 「学びと遊びと喜びの21世紀のふるさと やぶ」を考えていた。「但馬中央の郷」に戻ると、辺野古に戻った鳩山首相と同じになってしまうので、工夫を凝らした方がいい。
- 次回でまとまるのか。養父市の持てる資産は、自然と人、高齢者は知恵と知識のある人が多いので、これを生かす。「人」「自然」「交流」の3つが融合した言葉でもいいかなと思う。
- 養父市は4つのまちが合併したまちである。大屋の天滝、関宮の氷ノ山、養父のホテル、八鹿の妙見。この4つの地名を全部使った言葉にしたらどうか。
- 「叩き台」をもとにして考えたら、まとまるのではないか。

(会長) 次回こそまとめる。言いそびれたことがあったらまとめておいてほしい。

7 閉会

(大林副会長) 今日聞かせていただいた、いろいろな意見は、また次回につなげたいと思う。今日のご苦勞様でした。